

## 4. 福祉機器の活用

福祉機器を活用することは頸髄損傷者にとって、生活範囲の拡大や介護量の軽減が図られるなどの利点があります。導入に際しては、購入費用や維持費が高額になることもあるので注意が必要です。購入時に補助金の制度のある機器もあります。

### (1) リフト

自力で車椅子からベッドやシャワーチェアなどへの乗り移りが難しい場合には、介助者の負担軽減のために導入を検討します。選定においては、住環境の状況や使用者の意向を踏まえて検討します。

#### ① 天井走行式リフト

- ・ 天井にレールを這わせ、生活動線を考慮して施工する。
- ・ ベッドやトイレ、浴室への移動を軽い力で行えるため、介助者の負担が少ない。
- ・ 天井の補強が必要となるため、新築の際に設置されることが多い。  
※まれに、本人が自力で使用する際に購入（導入）することもある。



天井走行式リフト

## ② 措置式リフト

- ・ 天井や既存構造物に改造を必要とせず、檣（やぐら）ユニットを組み立てて使用する。
- ・ 天井走行式よりも安価に設置が可能。
- ・ 部屋をまたぐ使用ができない。



措置式リフト

## ③ 固定式リフト

- ・ ベースフレームを設置した固定式のリフト。
- ・ ベッドから車椅子、浴室での浴槽の出入りやトイレの便座への移乗など、単独の場所に取り付けて使用される。
- ・ 部屋をまたぐ使用ができない。

## ④ 床走行式リフト

- ・ キャスターがついており、移動範囲の自由度が高い。
- ・ ベッドから車椅子、床から車椅子、車椅子同士間などの移乗で使用できる。
- ・ 部屋をまたぐ移動に向いているが、取り回し時に脚部が干渉しないことが使用条件となる。



固定式リフト



床走行式リフト

## (2) エレベーター(垂直リフト)

- ・ 住宅状況や同居者の希望によりエレベーターを設置し、2階以上で生活することもある。(自室は緊急避難時の対応や平時の移動を考慮し1階に設定することが理想)
- ・ 設置において、高額な初期整備費用や継続的なランニングコストがかかる。



エレベーター



垂直リフト

## (3) 階段昇降機(椅子式)

- ・ エレベーターや段差解消機の設置が困難な場合の手段として検討する。
- ・ 体幹機能障害のある方には不向き。
- ・ 自力で体を支えることのできる不全麻痺の方には、有効に使用できる場合もある。
- ・ 椅子式では姿勢の安定や安全確保のために体幹の固定や介助者の付き添いが必要。

※当センターでは車椅子用の階段昇降機は一般家庭の住環境整備で使用した例はありません。



新光産業株式会社のHPより

階段昇降機(椅子式)



新光産業株式会社のHPより

車椅子用階段昇降機